

令和6年度 第1回たつの市行財政改革推進委員会
－ 会議録 －

日 時：令和6年7月25日（木）午前9時55分～午前11時45分
場 所：たつの市役所新館4階災害対策本部兼大会議室
出席者：委員10名、事務局
傍聴者：なし

1 会議内容

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 市長あいさつ
- (3) 委員・事務局紹介
- (4) たつの市行財政改革推進委員会について
- (5) 会長及び副会長の互選について
会長：徳永一夫委員、副会長：喜多敦子委員
- (6) 議事
 - ①行財政改革の取組と現状について
 - ②行財政改革推進実施計画の具体的取組項目について
 - ③「使用料及び手数料等」並びに「下水道使用料」の改定に関する説明状況について

【協議事項①】 行財政改革の取組と現状について（P 3～8）	
事務局より、取組状況等の説明を行い、意見交換を実施。主な意見等の要旨は次のとおり。	
委員	たつの市の財政状況を見ると、基金残高が増加していたり、健全化判断比率も良好な数値となっていますが、行財政改革推進実施計画を策定した目的が、少子高齢化や人口減少の中においても健全財政を維持していくというものなので、人口推移の資料もこの会議で提示してほしいと思います。 人口ビジョンの中では、現在の人口が目標人口より高いか低いかということが、現在の施策の指標の一つとなり得ると思いますが、現状はどのようになっていますか。
事務局	行財政改革と人口推移の関係は重要な視点だと考えています。 これまでの行財政改革は、コストカットしていくという視点でしたが、10年前から地方創生を推進する中で「人口」という指標は重要と考えています。 本市では、出生数が400人を割り込み、非常に厳しい状況です。平成17年の合併時の人口は、約83,000人でしたが、この20年間で約1万人減少しています。 また、本市では、まち未来創生戦略推進委員会という、別の外部委員会があり、その場では人口減少を捉えた施策を展開していくことを説明していますが、この行財政推進委員会においても、人口の視点を取り入れた形で、今後資料提供していきたいと思います。
委員	中長期の財政計画について、たつの市では公表されておらず、内部資料として作成されていると思います。公表している他自治体もありますが、今後どのようにされる予定でしょうか。

事務局	中長期の財政計画については、内部資料として作成していますが、事業ありきの計画となるため、中期的にどのような事業をするかも合わせて、公表を検討しているところです。 建設資材の高騰などの社会経済情勢の変化により、当初予定していた事業計画では対応できなくなっており、今年度・来年度にかけて再精査した上で計画を作成し、公表を検討していきたいと思います。
委員	資料5ページの基金残高について、多くの金額が積みれています。 今後のために貯金を残しておくという考え方は良く分かりますが、逆に言うと、もっとできた行政サービスがあったのではないかと、とも言えます。 新たに給食費の無償化や道路建設、補修などに使えたお金がプールされた（貯められた）という考え方もできます。 また、福社会館などの改修や小中一貫校の建設などの公共施設再編実施計画を推進する中で、現在の基金残高が適切か分かりにくいので、全体の財政計画を示した上で、説明する方が分かりやすいと思います。 公共施設整備基金の残高も増えている中で、市の基金残高に対する考え方を教えてください。
事務局	公共施設整備基金の残高は、令和5年度末で約75億円となっています。公民館、小中学校などの大規模改修や新たな公共施設の建設費用として、基金を積んでいる状況です。 合併以降、公共施設の統廃合が進んでいない状況の中、公民館では老朽化が進み、大規模改修や建替を検討していかなければなりません。 また、図書館や体育館についても、市内にそれぞれ4つあり、老朽化が進み、同様の検討が必要です。 現在取り組んでいる事業としては、新宮地域で小中一貫校の建設を進めており、事業費は約100億円を予定しています。財源については、国の補助金や市債を考えており、国の補助金については、建前上約5割となっていますが、そこまで補助されない状況です。 残りは市債になりますが、新宮地域が過疎地域に指定されたことにより、過疎対策事業債（他の市債より普通交付税算入率が高い有利な市債）の発行が可能となり、財源としては確保できると考えています。 これまでは、大規模な公共施設の建設や改修に充てる財源として、公共施設整備基金を考えていましたので、今後検討を進めていく図書館、文化センター、公民館、体育館の統廃合、建替に対して、有効に活用していきたいと考えています。 また、約80億円ある財政調整基金については、自由に使える基金となっています。令和6年度当初予算において、約10億円の財政調整基金を取り崩しており、このままだと8年で基金残高が枯渇してしまいましたが、そうならないように、今後の行政サービス、市民生活のために、できる限り残していきたいと考えています。

委員	市の方は、人口推移を甘く見ているように感じます。 以前、国の 2050 年の人口推計では、現在の約半数の人口になる予測に対して、たつの市では 6 万人を維持したいという数値を出されていました。この考え方が、今もなお根付いているように思います。 人口推移をよく見ますが、たつの市では人口増になっていることがなく、このまま減り続けるとどうなるのかと思います。市民は、そのくらいしか考えておらず、増えていかない人口に対して、たつの市を残していけるのかと思います。 将来的には、神戸市や姫路市などの大きな市だけとなり、飲み込まれていくだけだと思います。一方で、太子町は人口が増えているようですが、分析していく必要があると思います。
事務局	人口減少は全国的な問題として捉えており、太子町の人口は、微減で推移しているようです。 本市でも人口減少が進んでおり、7 万人を割り込もうとしています。本市としては、人口減少に対して、あらゆる手立てを講じていますが、人口減少が止まることは難しいと考えています。 そのため、人口減少を受け止めつつ、減少率を鈍化させていく施策を検討していきたいと考えています。特効薬はありませんが、給食費の無償化や定住者に対する補助金、空き家利活用補助金などの地方創生に資する事業を行っています。 近隣自治体が消滅可能性自治体に挙げられている中で、西播磨の中心市として、踏みとどまるような施策を皆さまの意見をいただきながら検討・実施していきたいと思っています。
事務局	昨年の合計特殊出生率（全国）は 1.20 となっており、人口を増やしていくためには、2.07 が必要です。この数字については、行政も十分認識した上で、各施策に取り組んでいます。 現在と 2050 年の本市人口を比較すると、0～14 歳の人口が約 47%減となる見込みであり、人口増となる見込みはありません。そのため、行政として必要なことは、人口減少に応じたまちづくりの視点です。 その中でも、道路や下水道施設などについては、縮小させることが難しいですが、図書館、体育館などの施設については、移動手段が確保できれば集約できると考えています。 各施設で考えると、総論賛成、各論反対になってくるので、現実を示しながら最適な方法を選択することが行革の狙いだと考えています。行革イコール時代の変化に対応することだと考えています。
委員	市の考えと市民の考えの乖離が大きい、市民が理解できていないように感じます。市民は、たつの市と他自治体を比較し、他自治体が良く出来ていると感じています。例えば、他自治体では、テレビなどのメディアを活用して、上手に宣伝しているように感じます。企業は失敗しない限り潰れませんが、自治体は人口が減れば、合併により消滅します。 税金を納めている側としては、自治体がきちんと使ってくれているかを見ます。企業は、女子高生や社会に興味のある子どもに意見を聞くことにメリットがあると考えていて、自治体においても、子ども達が大きくなったら、自分の町に住みたいと思ってもらえるかを考えることが大切です。

	働くところがない場所に、人は住みません。働きたいと思う企業を誘致することが大切だと思います。 兵庫県内で言うと、淡路島が成功事例として挙げられると思います。パソナが進出され、観光にも力を入れられ、楽しい島になっていると思います。西海岸のパンケーキなど、目を惹くものが1つでもあると良いと思います。 たつの市では揖保乃糸が有名ですが、来訪して素麺を食べようという人は多くありません。素麺を提供している飲食店も少ないと思います。特徴的なことをしていかないと、たつの市が他自治体に飲み込まれてしまうと思います。 現在、龍野 IC 周辺を区画整理しようとしています、コストコが来ても人口は増えないし、周辺の商業施設は潰れると思います。買い物客が市内観光するという方もいますが、冷凍食品を買うので行かないと思います。 市税は増えるかもしれませんが、労働力が吸収されるため、市内産業も潰れると思います。たつの市は、エッセンシャルワーカーが多く、現場での仕事が多いです。 市民にとっては、少し大きなスーパーマーケットの方が、行きやすく、生活圏に潤いが出ると思います。
委員	人口が増えないとビジネスが成り立たないと思います。人口を増やすことが、市を維持する基準にもなると思います。たつの市に住みたいと思ってもらえるまちにするには、各地域の特色を生かすことが必要だと思います。 本竜野駅周辺では、駅東側に道路が整備され、周辺に多くの住宅が立ち並ぶようになりましたが、他の地域では、人口が減り過疎化が進んでおり、田舎の良さが発揮できていないように感じます。 例えば、新宮地域だと西栗栖地区、龍野地域だと揖西地区のお米がおいしい地区だと思いますが、各地域の特色をアピールして、ビジネスに結び付ける作業が必要だと思います。 行政で各地域の特色、方向性を決めて、人口増の施策、魅力発信を行っていくべきだと思います。定住施策として、子育て施策に力を入れておられると思いますが、それだけではたつの市に住もうと思わず、魅力につながっていないと思います。 たつの市が 30～50 年の長期プランを策定し、各地域の良さを生かした土地活用などを検討し、10 年後、20 年後を見据えて考えていく必要があります。 龍野川西地区を観光地としていくな、徹底した整備が必要で、埼玉県川越市だと、江戸時代の建物が維持・整備されており、平日でも多くの観光客が来訪しています。まちを挙げて、ビジョンや投資計画を作って取り組む必要があると思います。
事務局	SNS や新聞などのメディアでの PR を行っているところですが、本市の魅力を伝えきれていないと感じています。 若者の意見については、重要だと考えており、先日、大学生を呼んで、政策アイデアコンテストを実施し、SNS の活用手法等を提案していただきました。 また、雇用については、企業を誘致する土地がない状況で、企業団地の造成を含め検討しているところです。大学生からは、就職先があれば自分のまちに住んでも良いというアンケート結果も報告していただいていますので、引き続き力を

	入れていきたいと考えています。 また、お米については、地域ごとの PR は難しいですが、学校給食には市内産のお米を使用しており、ふるさと応援寄附金についても、市産米を PR しているところで、地元と連携しながら、全国に発信していければと考えています。 また、各地域での PR については、合併して 20 年が経過しますので、オールたつのとして魅力を高めていきたいと思います。各地域のポテンシャルを生かして、全市として魅力発信していきたいと思います。 人口については、近隣自治体と取り合いの状況となっており、独自性の高い施策・投資をしていきたいと考えています。
【協議事項②】 行財政改革推進実施計画の具体的取組項目について（P 9～27）	
事務局より、行財政改革推進実施計画の具体的取組項目における取組状況を説明し、意見交換を実施。主な意見等の要旨は次のとおり。	
委員	資料 11 ページの戦略的広報の推進についてですが、若者が SNS を使うのが当たり前になってきており、新宮花火大会においても、SNS での発信の効果もあり、市外からも多くの人が来られました。 一方で、テレビやマスコミの影響は大きいと感じており、ロケ地に選ばれると、たつの市の情報がテレビで発信されるので、市民としても嬉しく思います。 マスコミとの提携を強化し、市外の方にたつの市を知ってもらう取組をしていただきたいと思います。
委員	大学生アイデアコンテストは、いつ実施されましたか。この事業については、市からの広報がなく、知りませんでした。 行政は、事業の成果や結果に対して、広報を行うことが多いですが、場合によっては、事業実施の過程を大きく記事にすることができます。 この大学生アイデアコンテストは、資料 11 ページの写真を事業実施の過程の記事として取り上げることができた内容になりますので、広報の形式にこだわりすぎず、記事にならないかなと思うことでも知らせてもらうと良いと思います。
事務局	大学生アイデアコンテストについては、7 月 20 日に実施し、提案いただいた政策アイデアを翌年度以降の予算・政策にするかを検討するコアな事業のため、クローズで開催していましたが、市長からもオープンにしてはどうかと指摘されたところでもありますので、来年度は、自治会等の各種団体や市議会議員、記者等に声掛けしていきたいと考えています。 本市の PR については、今年度、インフルエンサーや本市ホームページのリニューアル事業を大学生の意見を取り入れながら、検討しているところで、期待に沿えるよう取り組んでいきます。
事務局	メディアに露出することは、知名度を上げることに繋がると 생각합니다。 ただし、地元の方がよく行く店舗については、分野によりますが、メディアへの露出により、地元住民を排除して、観光客メインになってしまうなどの弊害がありますので、その辺りを意識しながらメディアに取り上げられる工夫をしていきたいと思っています。

委員	たつの市のInstagramなどの SNS について、数年前と比較し、すごく良くなっていると思います。 市の PR 方法を若者と検討されているようですが、国民宿舎のあり方、ふるさと納税についても、若者の意見を取り入れながら検討できれば、良い意見が出ると思います。
委員	赤とんぼ荘については、たつの市のシンボルだと思います。RESAS によると、たつの市には道の駅みつに多くの方が来訪しています。 年代によって来訪目的は違いますが、市の中で特徴的なもの、これというものを PR することが大切だと思います。 たつの市には、皮革やと畜場などがあり、たつの市ならではのコンテンツがあると思いますので、業界と連携して、スポンサー制度等も活用して、魅力を発信すれば良いと思います。
委員	赤とんぼ荘については、建物内が今の時代に合っておらず、また、汚いと思います。今のままでは誰も泊まらないと思います。現状のままで使い物にならないという考えのもと、今の時代に合わせて、手を入れていく必要があります。 赤とんぼ荘を生かすためには、龍野川西地区の整備が必要で、武家屋敷の風情を残すために補助金を出しているのは分かりますが、建物が劣化しており、旧来の良さが失われていると思います。 部分的には残っていますが、町並み全体では魅力が失われているように感じます。来訪客も増えているとは聞いていますが、いずれ減少すると思います。 赤とんぼ荘に 1 泊してもらえよう、町全体を整備していく必要があります、その方針を示すのは、行政しかできないと思います。また、方針に賛同する企業を呼び込んで進めていかないとうまくいかないと思います。
事務局	国民宿舎に限って言うと、これまでは行政がビジョンを作るという手法で検討していましたが、赤とんぼ荘については、用途が特殊なため、民間需要を探った上で、投資していただける事業者を探す手法で検討しており、サウンディング調査を含めた、公募型の提案を模索しているところです。 ハード面で言うと、施設が古く、非耐震の部分があり、取り壊しても良いのではないかと要素も入れた上で、民間投資を模索しているところです。 重伝建地区をはじめとした龍野川西地区については、多くの店舗ができ、人通りが増えていると感じています。 本質が失われているという意見については、重伝建地区での改修は、一定の基準がありますので、大きな構造的変化はないと認識しています。 ただし、空き地などの空間が増えている印象を持ちますが、現実的には難しいと感じています。 龍野川西地区のまちづくりについては、生活と観光が共存したまちづくりを、地元住民も認識した上で取り組んでいますので、行政は尊重しつつ伴走支援できればと思っています。
委員	現在、やっていることが中途半端だと感じており、やるなら徹底的にすべきだと思います。埼玉県川越市では、行政が町並み全体を計画し、ビジョンを打ち出して整備しています。そうしないと、旧来の町並みが、いずれ崩れると思います。

	行政がビジョンを打ち出し、それに伴う制限をかけ、補助を出すこともあります。ビジョンに沿って町並みを整備することが重要だと思います。民間主導だと商売優先になるので、市のビジョンを優先する考えにはなりきらないと思います。 赤とんぼ荘についても、建て替えをして経済的に良いものになるのであれば、市が町全体のマスタープランを作って、長期的に整備していくことが必要だと思います。市の方で計画を作らないと、民間では無理だと思います。
事務局	重伝建地区の選定についても、地元発信の中から昇華したものと認識しています。龍野川西地区については、地元と行政が一緒になり、有識者にも参画していただきながら、龍野まちづくりビジョンを策定していますので、尊重していくべきものだと思います。 例えば、倉敷市美観地区については、観光地として整然としていますが、夜になると真っ暗になっています。一方で、重伝建かなと思うような場所もありますので、居住している方の意思も尊重した上で、より良い形になればと思います。
委員	自治体 DX の推進について、たつの市の情報セキュリティはどのようになっていますか。全国では偽物のマイナンバーカードが出回っていたり、また、世界ではマイクロソフト社のシステム障害による飛行機の運航停止が発生したりしていますが、自治体でも今後システム障害などが起こった時にスピーディに対応していく必要があります。 本当は国に聞いてみたい内容ですが、偽物のマイナンバーカードが出回っている中で、12 月にマイナンバーカードが保険証になるようですが、マイナンバーカードにどこまでの効力を持たせるのかと心配に思います。 キャッシュレス決済などのデジタル化が進むことで、利便性が高まりますが、リスクを考えると、どちらが良いのかと思います。
事務局	自治体 DX については、安全性を担保した上で進めていかなければなりません。クラウドシステムの関係では、自治体情報システムの標準化を国の旗振りのもと、各自治体が行っていますが、クラウドシステムを提供している会社は海外が多かったと思います。国が旗振りしていますので、セキュリティに関しては信頼できるものと思います。 また、自治体は、総合行政ネットワーク（LGWAN）など一般回線とは別の回線を使用しており、通常よりはセキュリティが確保されている回線を使用していますが、安全性が担保されない自治体の信頼が揺らぐということを常に意識していきたいと思います。
委員	たつの市では、令和 4 年度からデジタル戦略監を外部人材として採用しており、たつの市のデジタル化を推進していただいていますので、何かあった時には対応してくれると思います。

【協議事項③】 「使用料及び手数料等」並びに「下水道使用料」の改定に関する説明状況について（P 28～29）	
事務局より、「使用料及び手数料等」並びに「下水道使用料」の改定に関する説明状況を説明し、意見交換を実施。主な意見等の要旨は次のとおり。	
委員	資料 28 ページの市民説明会について、参加者人数が 68 名と少ないと思いました。市ホームページや広報誌で周知されており、市民の興味がない、時間が合わなかった、ということもあると思いますが、昨今のデジタル化が進展する中で、説明会の内容を録画し、後日 YouTube 等に掲載すれば、いつでも見ることができると思います。資料を見るだけなのと、説明していただけるのでは理解も大きく変わると思います。 各公共施設における利用者への説明についても、各種団体の役員は説明を受けますが、利用者は聞けない場合もあります。 ビデオカメラで撮り、ホームページに掲載すれば、後で聞いていないなどの苦情がなくなるように思います。
事務局	現在は、説明動画をホームページなどに掲載していませんが、新たな周知方法として検討していきたいと思います。 市民説明会の参加者人数が少ないという意見については、各公共施設の利用団体等（約 650 団体、約 850 名）に説明、周知を行っており、個別説明がしっかりできたと考えています。改定内容については、概ね理解が得られたものと考えています。 また、昨年度の行革委員会で、利用者へ丁寧な説明を行うようにとの御意見を踏まえ、しっかり説明できたと考えています。引き続き、来年 4 月の施行日まで、利用者等へ周知していきたいと思います。